

事業評価個票（事業実施：令和7年度）

（様式1）

事業名	さくらんぼ王国果樹産地活性化事業費		開始/終了(予定)年度	令和7 / 令和10		活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		単位	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度						
部局・担当課名	農林水産部 園芸大国推進課						①②補助事業で支援を行う生産者数(累計)	活動実績	人											
総合発展計画実施計画の位置付け	政策の柱、政策	[政策の柱2]競争力のある力強い農林水産業の振興・活性化 [政策2]収益性の高い農業の展開			当初見込み			人	300	600	700	800								
	施策	[施策2]「やまがた紅王」をはじめとする園芸大国やまがたの振興			③さくらんぼ新型雨よけハウスの改良作業の試行回数		活動実績	回												
	目標指標	経営体当たり果実の産出額	1,170万円 (R11)				当初見込み	回	2	2	2									
事業の目的	150年にわたり先人が築いてきた果樹産地を次代へつないでいくため、気象災害対策技術の開発・普及を進めるとともに、生産性を高める機械・施設の導入を推進する。						④スマート農業技術・機器開発の取組件数(累計)	活動実績	件数											
事業概要 (令和7年度の実施内容)	①さくらんぼ温暖化対応技術導入推進 【補助対象】遮光資材、散水設備、冷蔵設備、冷房設備、無加温ハウス等の導入経費 【補助率】 対象経費1／2（県1／3、市町村1／6） ②さくらんぼ品種転換緊急支援 【補助対象】「佐藤錦」から「やまがた紅王」「紅秀峰」等への改植に掛る経費 【補助単価】1本当たり2千円 ③気象災害に強く安全性の高いさくらんぼ雨よけハウスの開発 ・新型雨よけハウスの建設コストの低減（園芸農業研究所、東根市神町） ・既存雨よけハウスに遮光機能を付与した改修タイプの開発・実証（東根市現地実証ほ） ④スマート農業を活用した未来型果樹栽培の推進 ・普及性のあるスマート機器の実証・展示 ・民間企業と連携したスマート機器の開発					当初見込み		件数	4	4	5	5								
							活動実績													
							当初見込み													
						実施方法	■ 直接実施 □ 委託・請負 ■ 補助 □ 負担 □ 交付 □ 貸付 □ その他（ ） 上記実施方法とする理由： ①②(補助) 農業者・団体の主体的な取組みを促進するため。 ③④(直接実施) 新たな技術の開発・実証を効率的に進めるため、果樹等の栽培技術に関する研究を行っている県園芸農業研究所で直接実施することとしたもの。					成果指標（所管部局の分析）		単位	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	
												①②支援を受けて高温対策に取り組む面積(累計) (高温対策を講じた園地を増やすことで、収穫量の安定につなげていく)	成果実績	ha						
													目標値	ha	205	410	415	420	0	
当初予算額 (単位:千円)	① さくらんぼ温暖化対応技術等の導入支援 85,000 ③ 気象災害を軽減するための新技術開発 8,739 ④ スマート農業を活用した未来型果樹栽培の推進 4,488 計 98,227 — — — —											③既存のさくらんぼ雨よけハウスと比較した新型雨よけハウスの建設コスト(普及性が高まることで、気候変動下でも収量を確保できるさくらんぼ産地となる)	成果実績	建設コスト						
													目標値	建設コスト	1.7倍以下	1.6倍以下	1.5倍以下			
												達成度	%							
						④新規開発したスマート農業技術・機器の実用化件数(累計) (生産者が導入可能な技術・機器を開発し、生産の省力化につなげる)	成果実績	件数												
							目標値	件数	0	0	1	2								
							達成度	%			0%	0%								
財源内訳 (単位:千円)	国庫支出金 47,581 県債 その他特定財源 一般財源 50,646 計 98,227 — — — —					活動指標及び成果指標設定の考え方														
						①②については、本事業による取組状況は事業を実施する生産者数で明らかになることから、活動指標を「補助事業で支援を行う生産者数」とし、成果指標には「支援を受けて高温対策に取り組む面積」を設定した。														
						③については、新型雨よけハウスの建設コストの低減を図り普及性を高めるため、活動指標を「さくらんぼ新型雨よけハウスの改良作業の試行回数」とし、成果指標は「既存のさくらんぼ雨よけハウスと比較した新型雨よけハウスの建設コスト」とした。														
						④については、スマート農業を活用した未来型果樹栽培の推進に向けて、研究開発を加速するため、活動指標を「スマート農業技術・機器開発の取組件数」とし、成果指標を「新規開発したスマート農業技術・機器の実用化件数」とした。														

項目		評価 (ABC)	評価に関する説明	課題	
事業性の必要性	事業の目的が県民や社会のニーズを的確に反映し、成果目標の明確な達成手段として位置づけられ、優先度の高い事業となっているか。 また、市町村・民間等に委ねることができない事業なのか。				
事業の効率性	支出先の選定や受益者との負担関係は妥当であるか。				
	事業実施に当たって他の手段・方法等が考えられる場合、それと比較してより効果的あるいは低コストで実施できているか。 また、類似事業がある場合、他部局等と適切な役割分担を行っているか。				
事業の有効性 (達成度)	活動実績は見込みに見合ったものであるか。 また、整備された施設や成果物などは十分に活用されているか。			今後の対応	
	成果実績は成果目標に見合ったものとなっているか。				

(評価基準) 「事業の必要性・事業の効率性 A:妥当性が高い/B:おおむね妥当である/C:妥当性が低い」
「事業の有効性(達成度) A:目標を上回る成果、活動見込を上回って達成(100%以上)/B:おおむね目標どりの成果、活動見込をおおむね達成(80%以上100%未満)/C:目標を下回る成果、活動見込を下回った(80%未満)」